



児文研だより

第72回 川崎市立小学校 多摩区学芸大会 報告

令和6年11月28日（木）、11月29日（金）「多摩市民館」にて、多摩区学芸大会が行われました。1日目と2日目をあわせて12校が集まり、のびのびと表現する子どもたちの素晴らしい姿が見られました。オンライン協議会では、感想や意見交流などで、練習の工夫や子どもたちの成長の様子などをうかがうことができ、有意義な時間を過ごすことができました。熱心にご指導いただいた先生方、本当にありがとうございました。また、運営に際しまして、ご理解ご協力いただき感謝申し上げます。

1日目 11月28日（木） 午前の部

『みんなちがった個性～心の星、そして笑顔～』

長尾小学校 4年生

合唱ありダンスありのミュージカル仕立ての発表であった。衣装の色で表された「元気、規則、友情」は、どれも自分たちにとって大切にしたい個性であることが見事に表現されていた。最後の場面での全員が個性の光が灯る玉を持って発するメッセージやしっとり響く歌声は、会場を優しく幻想的な雰囲気包み込んでいた。

『菅っ子ししまい』

菅小学校 4年生

地域に伝わる伝統的な獅子舞の素晴らしさに気付き、大切に引き継いでいきたいという思いがあふれる劇であった。「コール隊」が劇の骨組みをつくる中で、児童一人一人が細かな動きでそれぞれに表現したり、音楽隊が場面の移り変わりや祭りの様子を表したりしていた。クライマックスに全員で表現する菅っ子ししまいは、大迫力であった。

『幸せのパズルゲーム』

登戸小学校 4年生

現実とゲームの世界が入れ替わるというファンタジーの世界を見事に演じていた。児童が役になりきっていて観る者を引き付けることに加えて、主役ではないが主役のような「コール隊」の様々な演出、そして小道具が場面の世界観を生み出していた。子どもたちが抱える課題や福祉を取り入れた内容からは、協力や助け合いなどメッセージが伝わってきた。

〈指導講評〉

川崎市立柿生小学校 教頭 支倉 圭太

今日の学芸大会では、演じる人と観る人にとってもよい反応がありました。【演】役になりきって演じる>【観】真剣に見つめる、【演】のびのびと踊る>【観】手拍子が生まれる、【演】劇を終えて座席に戻る>【観】拍手を送る・・・等。演じる人と観る人との相互作用で、会場の雰囲気がとてもよくなり、演技が益々よくなっていく感じが感じ取れました。『劇は、演じる人と見る人と一緒になってつく』ということがよく現れていました。指導してくださった先生方のご尽力に感謝いたします。

1日目 11月28日（木） 午後の部

『未来 夢むすび』

三田小学校 4年生

児童と教師の創作であるこの劇は、スペシャルむすびを食べると未来が見えるというとても興味深い場面から始まった。サッカー選手、美容師、お笑い芸人などのそれぞれの未来の場面が、小道具とともにとても分かりやすく、テンポよく表現されていた。会場と一体化したダンスや最後の全員合唱からは、表現を楽しむ子どもたちの気持ちが伝わってきた。

『ころころ、ころころ、ころがって。』

中野島小学校 4年生

会場全体に響き渡る美しい歌声から始まったこの劇は、感情を見事に表現した素晴らしい劇であった。嬉しい心・楽しい心・不安な心・怒りの心等々、心の様子を大勢の人数がそれぞれに言葉の意味を考えた表現をし、言葉がなくても十分に伝わる内容に仕上がっていた。また、白の衣装が感情を表す舞台の背景によく映えていて、きれいな世界観を創っていた。

『おばけなんてないさ』

生田小学校 4年生

活発な子どもたちにぴったりの劇で、のびのびと演技する姿が印象的であった。黒のお化けとカラーの子どもたちやドラキュラのシルクハットにマントなど、役に合った衣装が効果的に使われていて分かりやすかった。登場しただけでその場の空気を変える役柄もいて、会場を笑いに包んでいた。明るい全員合唱が最後の場面を盛り上げていた。

〈指導講評〉

川崎市立平間小学校 教頭 池田 靖

どの学校も児童の実態を生かした舞台に仕上がっていました。劇は舞台と観客でつくるものです。迫力あるダンスが会場を包み込んだり会場から自然に手拍子が始まったりなど一体感が感じられる場面が多く、本当に素晴らしかったです。劇の中の歌も大変効果的で、劇全体を盛り上げていました。先生方のご指導にはご苦労も多かったと思いますが、今回の経験は児童の成長に必ずつながっていくものと思います。ありがとうございました。

2 日 目 1 1 月 2 9 日 (金) 午 前 の 部

『てぶくろ』

南菅小学校 2 年生

2 年生、1 クラス 2 2 人の 2 クラスということもあり、まずは脚本選びから始まった。手袋の中を表現できるように大道具を使って表現を工夫した。2 年生ということもあり、舞台の上では緊張してしまい声が小さくなってしまふ場面があったが、楽しく演じることができた。舞台の照明が、とても効果的だった。動物ごとに違う動き方にしたりピアノの伴奏に合わせた動きをしたり、とてもすてきだった。

『開けてびっくり玉手箱』

下布田小学校 4 年生

脚本を作る際に、子どもたちから意見を出してもらったり、福祉の学習を取り入れたりして、子どもたちが興味をもって取り組める劇を目指した。人数が多いことを活かして、ダブルキャスト・トリプルキャストを設定し同じ役ごとに見合っけて演技を考えることができた。舞台の後ろにいたコール隊が、せりふを繰り返して、もう一度言うことにより、見る人にはっきり伝わっていた。みんなが知っている浦島太郎のお話をもとにしているので、話の内容が分かりやすかった。玉手箱から煙が上がる時の演出など、小道具の使い方がとてもすてきだった。

『ぼくたちがすごしたコロナ』

稲田小学校 4 年生

まず今回の脚本をどうするか、という所から始まった。最初は川崎 1 0 0 周年をテーマで考えていたが、缶詰の会などに参加したり講師の木村先生のお話を聞いたりして、今回はあえて脚本を固定化しないで、子どもたちの言葉を大事にして作っていった。何度も見合いをしていくうちに、子どもたちが自ら気付き、劇がどんどん変化していった。また、本番を 3 回設定することにより、トリプルキャストの子どもたちが、それぞれの役で見合っていた。舞台の袖でも子どもたちがお互いに声を掛け合っけて、「みんなで劇を作るんだ」という思いが伝わってきた。また最後の子どもたちの歌が、本当に良かった。

〈指導講評〉

川崎市立向小学校 校長 若狭 美加

どの学校も、大道具の手袋や小道具の玉手箱の煙の表現などの使い方がとても工夫されていました。また、子どもたちの意欲的に取り組んでいる姿が、とても素敵でした。学校の体育館とは違った照明の使い方や音響の響き方が効果的で、さらに劇の雰囲気盛り上げていました。劇の中で暗転する場面がありましたが、観ている側からすると、暗転するとそこで一度、劇が止まってしまうので、なるべく暗転しないように演出を考えると、さらに良いと思います。

2 日 目 1 1 月 2 9 日 (金) 午 後 の 部

『たぬきばやし』

西菅小学校 4 年生

まず子どもたちの興味・関心をもたせるために、9 月ごろに先生たちで「たぬきばやし」の音読劇に挑戦し、子どもたちに見てもらった。太鼓役やツリーチャイム担当の子どもたちが、今回の劇でとても活躍できた。児童数が少ないと思えないぐらい、迫力のある劇だった。和尚さんとたぬきを集団で演じていたのが良かった。また後ろのコール隊や楽器の子どもたちが、劇をしっかり支えていたので、みんなで劇を作っている感じがした。

『ごんぎつね』

東菅小学校 4 年生

まず国語で教科書の「ごんぎつね」の学習を終えてから、劇の練習を始めたので話の内容が、子どもたちの中に入っていた。練習の際に動画を撮影し、それを見合いながら練習を重ね、より良い表現につながっていった。場面ごとに照明を上手に使い分けていたのが良かった。また後ろのパネルを持っている子どもたちの動きやパネルの高さなどが揃っていて、とても綺麗だった。ごんや兵十など登場人物の動作が事前の学習を活かして、指先や目線など細かい所まで意識をしていたのが良かった。

『いでよ！ 守り隊 ～災害を知り、東生田を守ろう～』 東生田小学校 4 年生

総合の学習で学んだ災害のことを活かして劇の脚本にしたので、学芸大会に取り組む子どもたちの意欲がとても高かった。自分たちが学んだことを「伝えたい」という思いをもって、どの子も取り組んでいた。プロジェクターを使って映像や文字、せりふなどを大きく表示していたので、とても分かりやすかった。舞台を大きく使って、迫力のある劇になっていた。音と台詞が重なっていたので、聞きにくい部分が少しあった。

〈指導講評〉

川崎市立上作延小学校 井上 茂洋

どの学校の劇もとても素晴らしかったです。本当に、どの子も意欲的に取り組んでいる姿が、とても素敵でした。先生方が、お忙しい中、丁寧にご指導されていたことがよく伝わってきました。人数の多い学校でも劇の後ろにいるコール隊が効果的で、その子どもたちが意欲的に劇を支えて成功させていたと思います。最初に音楽の音量は大きく出して、子どものせりふが始まる時に音量を下げるようにすると、はっきり聞こえるようになります。ありがとうございました。